



## エスディー・ジーズ トップランナーがSDGsを語る! 持続可能なまちづくりへ 第2回

東松島市 工藤昌明教育長



国連が採択したSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた取り組みを推進していくために、政府は優れた取組を提案した全国29自治体を「SDGs未来都市」に選定。宮城県からは唯一、東松島市が選ばれました。

東松島市では、今後、各省庁の支援施策などを活用し、教育、エネルギー、生涯現役、経済循環、市民協働を中心に「持続可能なまちづくり」を目指し、本市の知名度アップにもつなげていく考えです。

ここでは、市の行財政を牽引するトップランナーの方々に、「SDGs」に対しての期待感や、持続可能なまちづくりへの思いをインタビュー。第2回目の今回は、市教育委員会のトップである工藤昌明教育長に「SDGs」を語っていただきました。

■問 SDGs未来都市推進室  
☎内線1249

QSDGsには、「誰一人とりのこさない」というキャッチフレーズがあります。子どもたちには特に当てはまることだと思いますが、どのようにこの課題にアプローチすべきでしょうか。

A学校教育の視点では、すべての子どもたちに対する「学力保障」が挙げられます。具体的には、日々の授業の工夫や特別支援教育の充実などです。一人一人の居場所がある学校学級づくり、どの子も喜んで学校に来れる学校づくりを進めていくことが大切です。

Q教育長が考える持続可能なまちとは何ですか。またそれを実践するために必要なことを教えてください。

A子どもたちがのびやかに育つまちを創ること。そして、生涯を通じて学びを習得し、実践できるまちにすることが大切であり、子どもだけでなく、大人も成長・成熟していけるようなまちにすることが重要だと考えます。それを実践するために必要なことは、「コミュニティ・スクール(CS)の推進」です。学校、家庭、地域、行政が一体となって子どもを育てるCSがますます浸透すれば、その教育効果は計り知れないものになります。市では市民協働のまちづくりが進んでおり、その中で全小中学校がCSになりました。地域づくりと学校づくりの相乗効果をもって質の高い教育につながるものと期待しています。

Q市では復興の森による環境教育などにも取り組んでいますが、この取り組みとSDGsとの連携によりどのような可能性が考えられますか。

A復興の森は宮野森小学校に隣接しており、現在は各科目で復興の森を活用した授業が行われています。自然の中で学ぶことは学問への興味を湧く契機となり、それが本当の意味での学力向上につながるはずで、宮野森小だけでなく、今後は市内の全学校が復興の森を上手に活用できるようにしていきたいと思っています。SDGsと連携し、地域を巻き込んだCSともつながれば、これは人口ビジョン達成の大きな柱となるでしょう。

インタビュー

インタビューの全文は、

東松島市 SDGs

検索

